



中京大学の FDとは

中京大学のFD(Faculty Development)とは、学部・研究科等が掲げる教学上の目的を達成するために、教育の質と教育力の向上を目指す、組織的かつ継続的な取り組みのことを指します。また、FDを“大学のすべての者の幸せのため”と位置づけ、それを目指して学生・教員・職員(三者)がベストを尽くすもの(For Doing our best)ととらえています。

FDに関する 人材育成の 目標・方針

「FDの目的・理念」に掲げる「より良い授業」を展開するために、授業の計画、実施、評価及び改善に関わる能力を身につけ、本学の特徴を活かした教育を行い、教育における自らの役割を自覚し、職責の遂行に全力を尽くすことができる人材の育成を目指します。

CONTENTS

- 教育推進センターのご紹介 2
- 大学の授業ってどうなっているの? 3
- 学位授与の方針(DP)を知ろう! 4
- 授業の履修にはシラバスを活用しよう! 5
- 科目の体系を理解しよう! 6
- アンケート結果から見る授業改善 7
- FDセミナー報告 8

教育推進センターのご紹介

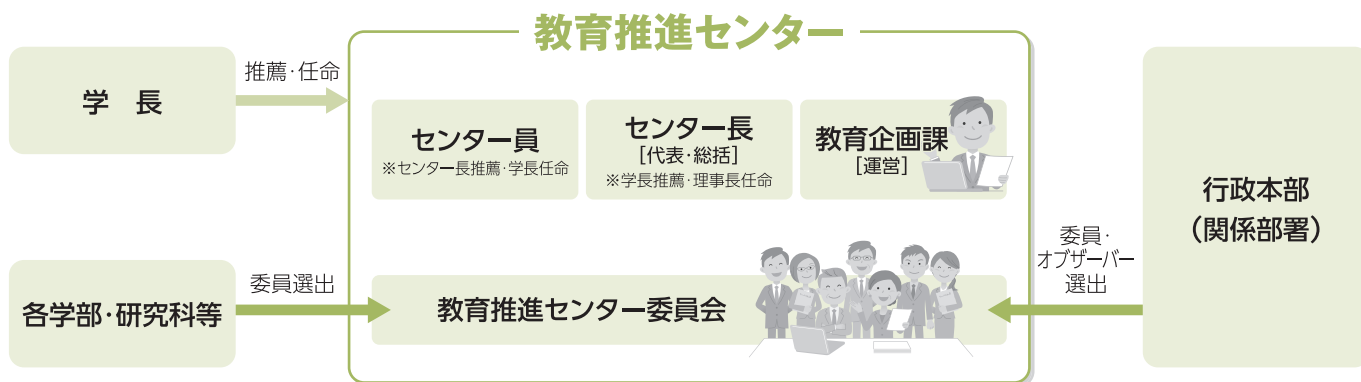
教育推進センターは、中京大学の教育理念及び目的を実現し、教育活動の質向上を果たすことを目的として設置されており、次に掲げる事業を行っています。

教育施策の企画及び実施

FD活動の支援

その他センターの目的達成に必要な事業

教育推進センターは、センター長とセンター員、また、センターの運営を行う教育企画課で構成されています。また、センターに設置されている教育推進センター委員会は、各学部・研究科等や、行政本部の関係部署から選出された委員・オブザーバーによって構成されています。



中京大学の建学の精神(要約)

学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ

本学では、上記建学の精神を時空を超えた教育理念として堅持しています。

教育研究上の目的

本学は、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を制定し、その中で、各学部・学科、大学院各研究科・専攻それぞれの、「人材の養成に関する目的」を明記しています。各学科・各専攻は、それぞれの学びの特色を活かし、実社会で活躍できる能力と豊かな人間性を身につけた人材の輩出を目指すこととしています。

本誌について

本誌は、本学が行うさまざまなFD活動について、学生や保護者、教職員のみならずが情報共有することを目的として年2回、学期ごとに教育推進センターが発行している冊子です。本誌は教育推進センターのHPIにも掲載しています。

大学の授業ってどうなっているの？

— 大学の授業の仕組み —

● 大学のカリキュラム^{※1}

本学のカリキュラムは、全学共通科目と、学部固有科目から構成されています。全学共通科目の履修を通じて総合的な知識を身につけるとともに、論理的思考力とコミュニケーション能力を磨きましょう。学部固有科目では専門的な知識や技術、課題の発見から解決方法までを身につけます。それぞれの学部・学科(専攻)の教育研究上の目的が学生便覧^{※2}や本学のHPに載っていますので、まずはその目的を理解しましょう。

※1 カリキュラム(教育課程):教育目標を達成するために、学段段階に応じて編成した4年間にわたる教育内容の計画のこと

※2 学生便覧:学生生活を送る上で必要な情報を掲載した冊子

● 授業の選び方

大学の授業は、必修科目^{※3}、選択必修科目、選択科目の3つに分類することができます。まずは学生便覧でカリキュラムをしっかりと理解しましょう。次に、自分が履修すべき授業の内容を事前にシラバスでチェックしましょう。選択科目はたくさんの授業の中から興味のある科目を履修することができます。授業を選ぶときはシラバスをよく読んで、自分が身につけたい分野の授業を選択しましょう。また、時間割表も忘れずに確認しましょう。

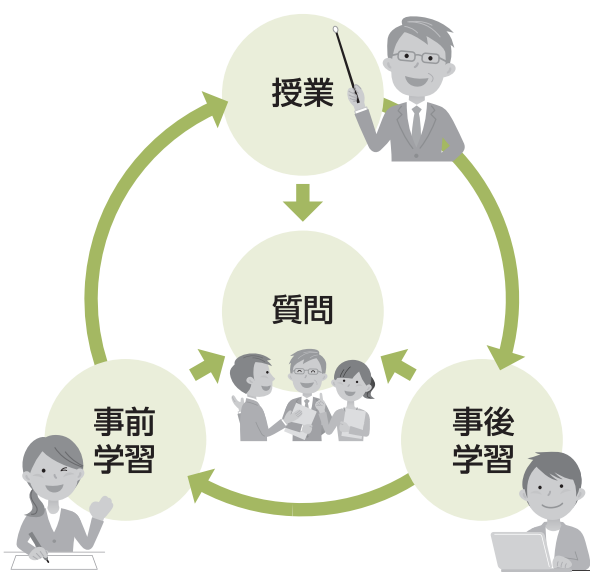
※3 必修科目:卒業するために必ず修得しなければならない科目

● 大学での学び方

大学では、自ら学ぶ姿勢が非常に重要です。そのため、下の図のような学びの流れを自分で構築していかなければなりません。教務課や授業担当教員への相談はもちろん、CHUKYO MaNaBoなども活用していきましょう。

CHUKYO MaNaBoとは？

資料・課題の提示など、授業担当教員と学生を結ぶ教育支援システムです。



予習復習時間を表したものです。1時間未満の学生が過半数を占めており、学修時間が足りていないことがわかります。予習復習の時間を取るためにも、履修登録は計画的に行いましょう。

※4 授業時間:大学の授業は1回(コマ)を2時間として算出します

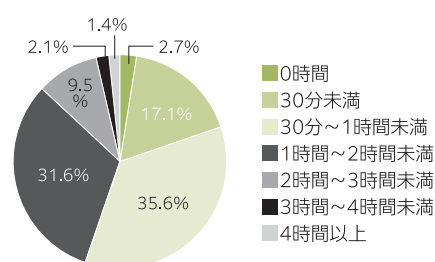
● 事前事後学習をしっかりとしよう!

大学の1単位の定義は、法律で「四十五時間の学修を必要とする内容」とされています。また、1単位の授業時間は、講義及び演習:15~30時間、実験、実習及び実技:30~45時間とされています。

例えば1科目で2単位の講義では、90時間の学修が必要となります。次に授業時間^{※4}は「15時間×2単位=30時間」となります。つまり、授業時間以外での学修は、「90時間(学修時間)−30時間(授業時間)=60時間」となります。15回の講義だと、60時間÷15回=4時間となり、授業1回ごとに事前事後学習が各2時間ずつ必要だと言われています。

右のグラフは中京大学生の1日の

中京大学生の1日の学習時間



参考:2021年度「自己成長評価アンケート」

学位授与の方針(DP)を知ろう!

—— 卒業に向けて身につけるべき力とは ——

学位授与の方針とは?

大学、学部・学科等の教育理念に基づき、卒業の認定と、学位の授与のために学生が身につけるべき能力を定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標となるものです。英語のDiploma Policyを略してDPとも呼ばれます。

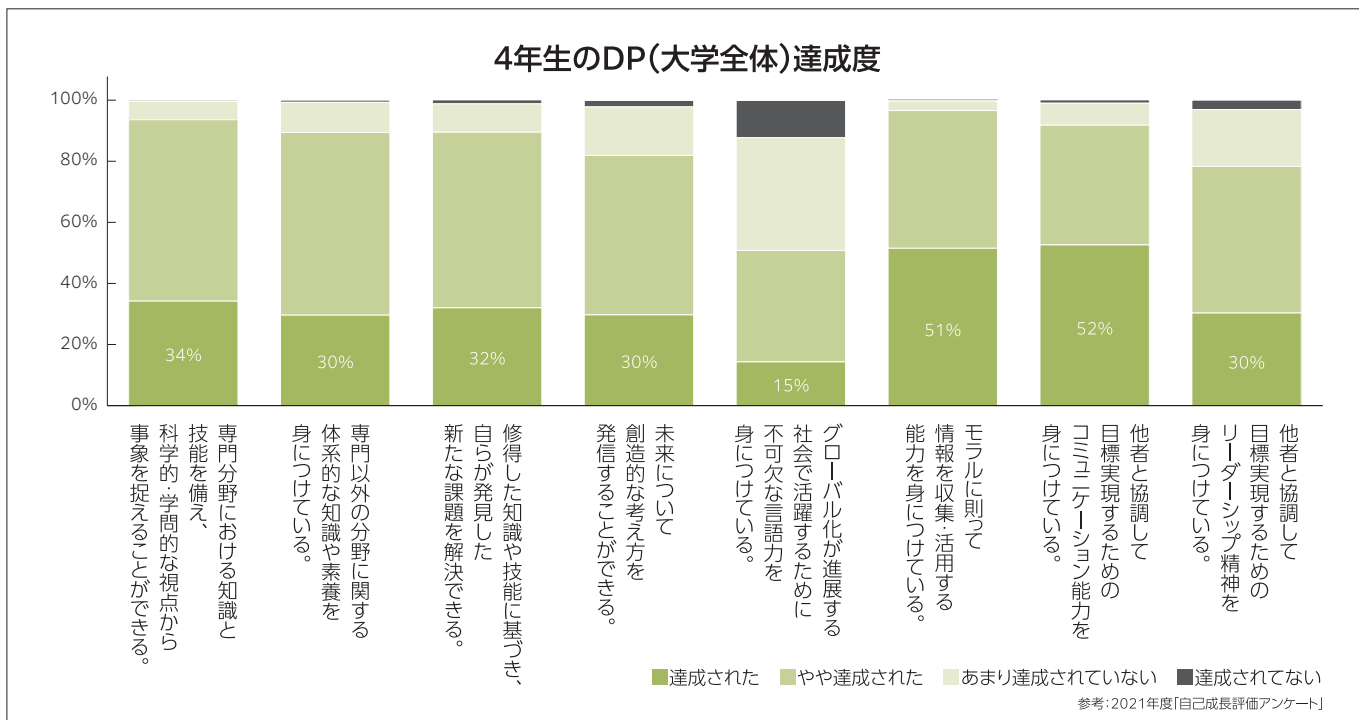
● 大学全体のDP

中京大学の使命は有為な人材を社会に送り出すことにあります。建学の精神に定める四大綱では、「1)ルールを守る、2)ベストを尽くす、3)チームワークをつくる、4)相手に敬意を持つ」の体得者は「個人としても、家庭人としても、社会人としても、国民としても、世界人類の一人としてもまことに望ましい人間である」と謳われています。

本学では、これらの四大綱を体得し、さらに、各学部の「人材の養成に関する目的・教育研究上の目的」に基づく教育課程において学修し、厳格な成績評価を経て、以下に挙げる能力を身につけた者に対して学士の学位を授与することとしています。

- 専門分野における知識と技能を備え、科学的・学問的な視点から事象を捉えることができる。
- 専門以外の分野に関する体系的な知識や素養を身につけている。
- 修得した知識や技能に基づき、自らが発見した新たな課題を解決できる。また、未来について創造的な考え方を発信することができる。
- グローバル化が進展する社会で活躍するために不可欠な言語力、モラルに則って情報を収集・活用する能力、他者と協調して目標実現するためのコミュニケーション能力とリーダーシップ精神を身につけている。

下のグラフは、本学の4年生が大学全体のDPの達成度について回答した結果です。自身が4年生になったとき、自信をもって「達成された」と回答できるよう、学修を進めていきましょう。



ポイント

DPに掲げられた能力は、4年をかけて修得していくものです。DPやカリキュラムマップから、今の自分にどの能力が足りないのかを確認しながら履修登録をすると、自らの学修に目標を立てやすくなります。

授業の履修にはシラバスを活用しよう!

シラバスの見方や活用法を解説

シラバスとは?

授業の概要や方法、評価基準などが記載されている授業ひとつひとつのカタログです。履修登録をするときに、どの授業を履修するのかを決める重要な資料となります。

シラバスの概要

授業方法
どのように授業を展開するのが書いてあるよ。実施方法や講義形式などを確認しよう。また、遠隔授業の場合は、オンデマンド型やリアルタイム型などどのような形式で行われるかも忘れずに確認しよう。

学修到達目標
この授業でどんな力が身につくのかを確認できるよ。この項目は「学位授与の方針」に基づいて定められているよ。

成績評価方法・基準
成績のつけかたや、課題・試験の成績への反映比率などが分かるよ。

科目名	サンプル講義	開講年次
副題	建学の精神と歴史から本学の特性を理解する	曜日 月曜
授業概要・目的	自身が学ぶ大学について関心を持ち理解を深めることは、大学生生活を豊かなものにしていくことに繋がっている。それは中京大学の歴史に始まり、中京大学の歴史に関する「開学前史」、「開学から60年のあゆみ」、「現状と課題」、「将来像」等を題材とし、そのなかで中京大学の歴史を位置付けるという社会経済的視点を重視しつつ、「中京大学の特性」を明らかにするために【科目ナンバリング】Z-ABC-123-D	
学修到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中京大学の学生としての意識を高め、「校訓」、「建学の精神とその四大綱」をふまえて、本学の理念と歴史を学び、 ・本学の歴史を日本の歴史の中で位置付け、他大学と比較して本学の現状を評価し、中京大学の特性を説明できるよ。 	
授業方法	【面接授業（オンライン授業を含む）】 面接授業（第4～15回）、遠隔（オンデマンド型）授業（第1～3回）にて実施する。 ①原則面接授業として一部遠隔（オンデマンド型）で実施する。同時双方向のリアルタイム型では行わない。「MaNaBo」 ②主な担当者である中京太郎（経済学部教授）のほかに、ゲストスピーカー（外部講師）を計画に別記）を招く場合もある。各 ③教科書は使用しない。参考図書は提示教材のなかで紹介する。 ④教材は授業日前日（前日の23:59）までに提示される。 ⑤教材を十分に学習し、指定の課題について考えてみる。授業 ⑥レポートの提出期限は次回授業日前日の23:59までとする。	
成績評価方法・基準	毎回の授業レポートを重視する	70%
	定期試験のかわりに課題レポートを課す	30%

● 授業形態を確認しよう

授業形態については下表の「授業方法」の基準に則りシラバスの「授業方法」欄に明記されています。必ず確認しましょう。

授業方法欄への記述	授業方法
面接授業(初回を除き対面での授業実施のみ)	初回授業を除き対面での授業実施
面接授業(オンラインでの授業実施を含む)	対面での授業実施が15回中8回以上
遠隔授業(対面での授業実施を含む)	オンラインでの授業実施が15回中8回以上
遠隔授業(オンラインでの授業実施のみ)	全てオンラインによる授業

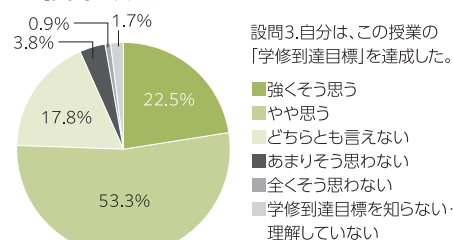
● 学修到達目標を確認しよう

右の円グラフは、「授業改善のためのアンケート」で、シラバスに記載してある授業の「学修到達目標」を達成したかどうかを学生自身が回答した結果です。ここで、約2%の人は授業の目標を知らない(理解していない)と回答しています。授業の目標を知らないままでは、多くの時間と労力をかけている学修の質を下げてしまいます。

「学修到達目標」は履修登録時に必ず確認し、分からないことがあれば初回の授業で先生に聞いておきましょう。

●シラバスにはこれらのほかにも、授業の計画や質問への対応方法、履修者へのコメント、事前事後学習などの項目が掲載されています。履修登録のときだけでなく、学期の途中にも確認し、参考にしましょう。

授業改善のためのアンケート



科目の体系を理解しよう!

カリキュラムマップ・科目ナンバリング・カリキュラムツリー

自分が大学でどのような力を身につけたいのか、そのためにどの科目を履修すべきなのかを理解しておく、学修の質はより良いものになります。そのためには、科目の体系を理解する必要があります。本学では、科目を体系化しているカリキュラムマップ・科目ナンバリング・カリキュラムツリーという3つの仕組みがあります。DPと併せて確認しておきましょう。

カリキュラムマップ

学部や学科・専攻ごとに、どの科目がどのDPに対応しているかを確認することができます。

※カリキュラムマップの例

科目名	科目ナンバリング	学修成果	DP1	DP2	……	DP9
○×学A	Z1-ABC-123-D	○○ができるようになる	○		……	◎

科目ナンバリング

科目ごとに学問領域や難易度を意味する記号や番号をつけ、教育課程の構造を明らかにする仕組みです。

※科目ナンバリングの形式例

D1 - **NFL** - **333** - **B**

科目開講部局 学問領域 レベル・通し番号 使用言語

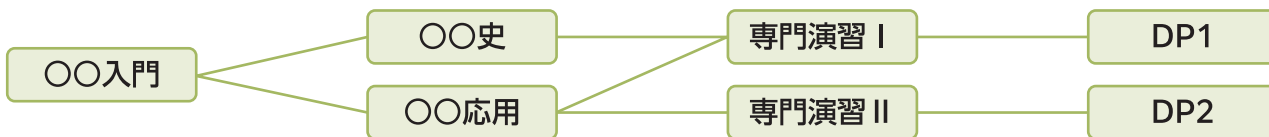
例示の詳細

D1 → 法学部法律学科
NFL → 新領域法学
333 → 発展・応用・展開科目
B → 2カ国語以上

カリキュラムツリー

科目同士のつながりを確認することができます。科目ナンバリングと併せて確認すると効果的です。

※カリキュラムツリーの例

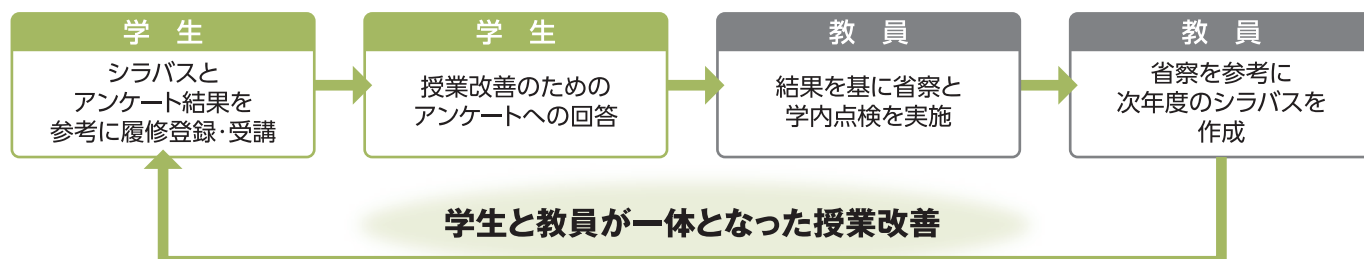


学部や学科・専攻ごとのカリキュラムマップ・科目ナンバリング・カリキュラムツリーの詳細は、DPや教育研究上の目的等と共に大学のHPIに掲載してありますので、シラバスと併せて確認しておきましょう。

アンケート結果から見る授業改善

本学では、提供する学びの機会がより良いものとなるよう、様々な教育改善に関する活動を行っています。そのひとつが「授業改善のためのアンケート」です。毎学期皆さんの授業に対する意見を集約し、授業担当教員はその結果を授業改善に結びつける努力をしています。学生の皆さんに一人でも多く回答いただくことがよりよい改善につながりますので、ご協力をお願いいたします。

アンケートによる授業改善のイメージ



アンケート結果に寄せて

授業改善のためのアンケートは、現在の設問になってから2022年度で5年目を迎えます。本学は、WEBアンケートとしては高い50%以上の回答率を維持しています(図表1)。

これは、ひとえに本学の教員と学生の「学修」に対する意識の高さの現れといっても過言ではないでしょう。それを裏付けるのが、結果の推移です(図表2)。

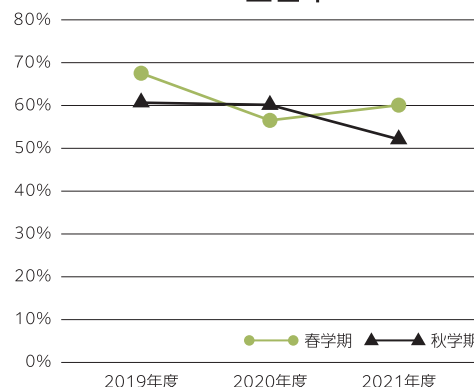
アンケート結果の平均値は2019年度から順調に上昇し、2020年度時点で秋学期の全体平均値が4.0を超えました。また、2021年度は春学期、秋学期ともに4.0を超える結果となりました。このことは、緊急的にオンライン授業が導入された2020年度の経験を活かしながら、絶え間のない学修の場を提供できている証左でもあります。

しかしその反面、継続実施にしたがって徐々に課題も見えてきました。回答率は高い水準であるものの、紙媒体による実施時の回答率は未だ超えることができていません。この点については、学期の終わりに実施するという特性上、回答者が授業改善の効果を実感しづらいという課題を克服していかなければなりません。また、継続して高い評価を得られていない科目について、全学的な見地から、組織としてアプローチしていく必要も出てきています。

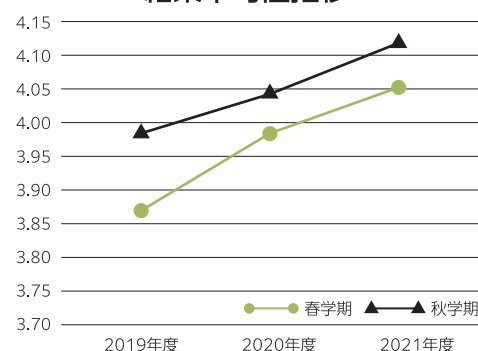
授業改善のためのアンケートは、あくまで「学生」の意見の集約であり、学部や教員一人一人の教育活動の全てがそこに現れるものではありませんが、授業を実際に受講した学生の意見は、決して軽んじることはできません。

教育推進センターでは、「教員」と「学生」、その双方にアンケートの意義を理解していただき、さらなる協力をいただけるよう、アンケートへの回答率向上や、結果の活用について、今後も検討を続けてまいります。

(図表1) 回答率



(図表2) 授業改善のためのアンケート結果平均値推移



アンケート結果を公開中!

授業改善のためのアンケートについて、全体の集計結果はHPで、科目ごとの集計結果と担当教員の省察コメントはMaNaBoで公開していますので、履修登録の参考にしてください。科目ごとの集計結果ページには、右のQRコードからアクセスできます。※アクセスにはMaNaBoへのログインが必要です。



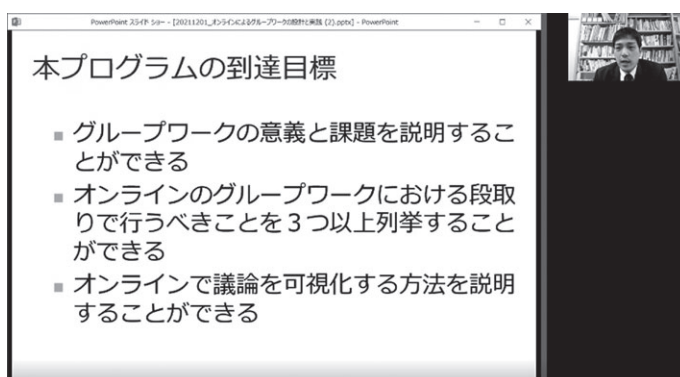
FD 報告
セミナー「オンラインによる
グループワークの設計と実践」を開催

- 講師 竹中 喜一 愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室講師
- 開催日 2021年12月1日(水)
- 参加人数 83名(対象:本学教職員(非常勤講師含む)、大学院生(博士後期課程))
- 開催方式 オンライン

2021年度2回目となるFDセミナーは、新型コロナウイルス感染症への対策をきっかけに一般化したオンライン授業について、「オンラインによるグループワークの設計と実践」をテーマに開催しました。

セミナーでは、講師からオンライン授業におけるグループワークの活性化について、事例を交えて説明がされたほか、参加時間でのグループワークを通じて実際にその効果を実感できる機会が設けられました。

また、オンライン授業を行う際の有効なツールとして、オンラインホワイトボードが紹介され、画面に表示された世界地図に、参加者が行ってみたい場所をマークするというワークを通して、ツールの効果を体験しました。



セミナー後に行われた参加者アンケートでは、「セミナーに参加してよかったと思いますか」という質問に対し、すべての参加者が「思う」「やや思う」と回答。また、「自分の授業・業務に活かせる知識やスキルを身につけることができましたか」という質問に対しても9割以上から「思う」「やや思う」との回答が得られました。

同アンケートの自由記述欄においても、「ちょうどオンライン授業でグループワークを実施したいと考えていましたのでタイムリーでした。オンライン授業の効果や可能性を考えるためにも役立ちました。」など、肯定的な意見が何え、満足度の高いセミナーとなりました。

過去のFDセミナー

年度	月 日	テーマ
2021年度	9月14日	レポート課題を軸に考える授業設計
2020年度	9月 8日	オンライン授業で学生の学習を促す工夫
	12月 7日	オンライン授業を対象としたインストラクショナル・デザイン
2019年度	5月29日	アクティブ・ラーニングの理解と実践的技法
	11月12日	授業設計とルーブリック

発行: 中京大学 教育推進センター

〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町101-2 Email: fd-office@ml.chukyo-u.ac.jp

